

関西医療大学 履修および試験等に関する規程（保健医療学部）

（目 的）

第 1 条 この規程は、関西医療大学学則に基づき、本学における授業科目の履修、試験および進級要件に関して、必要な事項を定める。

（授業科目の開設等）

第 2 条 授業科目は、必修科目と選択科目とする。

2 各年次ともその年次において、開講する授業科目、単位数、担当教員および時間割は、学年の始めに決定し、発表する。

3 学則の定めに従って、各年次に配当された授業科目以外の科目の受講は、原則として認めない。

（履 修 願）

第 3 条 学生は、選択科目からあらかじめ、履修しようとする科目を選択し、次の定められた日までに所定の方法で履修登録をしなければならない。

(1) 前期選択科目：4月の定められた日

(2) 後期選択科目：9月の定められた日（4年次）

(3) 後期選択科目：9月もしくは10月の定められた日（1年次から3年次）

2 履修登録した後、受講希望者の数に著しい偏りがあり、授業の進行に支障があると判断される場合には、調整することがある。

3 すでに単位を取得した授業科目の再履修は、原則として認めない。

4 第1項に定める手続きがなされた後の履修登録科目の変更、追加、削除等は、原則として認めない。

（履修の条件）

第 4 条 学生は、原則として、その年次に配当された授業科目を履修し、単位を取得しなければならない。

2 年間に履修登録できる単位数の上限は49単位とする。

3 クラスを指定して開講する授業科目にあつては、当該クラス以外の学生の受講は、原則として認めない。

（試 験）

第 5 条 試験は、定期試験、追試験、再試験、特例再試験および仮進級試験とする。

2 試験は、試験科目および期間または期日を定めて行う。

（受験要件）

第 6 条 学生は、次の各号のいずれかに該当するときは、試験を受けることができない。

(1) 試験を受けようとする授業科目について、第3条第1項の手続きをしていないとき。

(2) 試験を受けようとする授業科目の授業時間数の3分の1を超える欠席をしているとき。ただし、演習・実験・実習もしくは実技については、5分の1を超える欠席

をしているとき。

(3) 授業料等の学費を滞納しているとき。

(4) 学則第47条に規定する懲戒処分を現に受けているとき。(試験欠席届)

第7条 正当な理由で試験を受けることのできない学生は、あらかじめ、理由書を添えて、試験欠席届を大学教学部教務課（以下「教務課」という。）に提出しなければならない。

2 病気等で前項の試験欠席届を試験前に提出できない場合には、当該授業科目の試験日から1週間以内に試験欠席届を提出しなければならない。なお、病気による欠席の場合は、理由書の他、医師の診断書を添えるものとする。

(定期試験)

第8条 定期試験は、学期ごとに授業科目について、1回以上行う。ただし、授業科目により、平常の成績またはレポートの提出をもって、試験に代えることができる。

2 前項にかかわらず、通年科目の定期試験については後期に実施する。

(レポート)

第9条 前条のレポート提出については、次のとおりとする。

2 課題、様式、提出期限およびその他の注意事項については、教務課から連絡する。

3 定められた期日までに提出しなかった者は、当該科目の履修を放棄したものとみなす。

4 第6条の規定により、受験資格を失った者のレポートは、これを受理しない。

(追試験)

第10条 病気、その他の理由で定期試験を受けることができず、第7条に定める手続きを行った者に対し、追試験を行う。

2 追試験を受けようとする学生は、所定の受験料を添えて、追試験願を所定の期日までに教務課に提出しなければならない。

3 追試験には、第8条第1項のただし書を準用する。

(成績の評価)

第11条 学則第25条に規定された成績の評価は、100点～90点をS、89点～80点をA、79点～70点をB、69点～60点をC、59点～50点をD、49点以下をEとし、C以上を合格とする。

2 通年科目については、後期に評価する。

(再試験)

第12条 第11条第1項に定める成績が60点未満である者に対して、再試験を行うことがある。

2 再試験を受けようとする学生は、所定の受験料を添えて、再試験願を所定の期日までに教務課に提出しなければならない。

3 再試験の成績は、60点を上限とし、第11条第1項および第2項の規定に基づき、成績評価する。なお、この試験の追試験は、行わない。ただし、学校感染症により再試験を受験できない場合は、当該学生の当該科目の再試験日程を変更することがある。

- 4 定期試験を受験しない学生には、第1項に定める再試験を行わない。ただし、特別な事由がある場合には、この限りでない。
- 5 追試験の再試験は行わない。
- 6 第1項に定める再試験には、第8条第1項のただし書を準用する。

(特例再試験)

第13条 前条の定めのほか、次の場合に特例再試験を行うことがある。

- (1) 卒業見込みの者で単位未取得科目が1科目の場合。
- (2) 理学療法学科、作業療法学科および臨床検査学科3年生で前期終了時に専門教育科目の必修科目のうち単位未取得科目が2科目以内の場合。
- (3) はり灸・スポーツトレーナー学科、ヘルスプロモーション整備学科および臨床検査学科3年次終了時において、専門教育科目の必修科目のうち単位未取得科目が2科目以内の場合。
- (4) 1年生の前期終了時に必修科目のうち単位未取得科目がある場合。

(不正行為)

第14条 試験において、不正行為があった場合、それまでの当該試験期間中に行われた試験は無効とし、当該学生は、当該期間中の以後の試験を受験できない。

- 2 定期試験、追試験、再試験および仮進級試験において不正行為を行った者は、全ての科目についてその年度に行われる特例再試験の受験を認めない。

(単位授与)

第15条 学則第24条に基づき、第2条に定める授業科目の講義、演習、実験、実習もしくは実技を修了し、試験に合格した者に所定の単位を与える。

(はり灸・スポーツトレーナー学科における進級)

第16条 本条において、はり灸・スポーツトレーナー学科の進級に関する事項を定める。

- 2 その年次に配当された必修科目の単位を取得したときは、次年次への進級を認める。
- 3 当該年次に配当されている必修科目のうち、第6条第2号に規定する出席不良による受験停止のため必修科目の単位が未取得となった場合には留年とする。
- 4 当該年次に配当されている必修科目のうち、未取得単位が3単位以下のときには、次年次への仮進級を認める。未取得単位が4単位以上の場合には留年とする。ただし、未取得単位が4単位以上であっても、2年次または3年次への進級判定に限り、当該年度の functional Grade Point Average (以下「fGPA」という。)が2.0以上であれば仮進級を認める。なお、fGPAについては履修および試験等に関する規程施行細則に定める。
- 5 留年となった者は、前年度までに単位取得出来なかった必修科目を履修し、単位を取得しなければならない。ただし、前年度に単位取得した科目の単位は認めることとする。
- 6 仮進級となった者が、必修科目の未取得単位を次年次以降において取得する場合

には、第6条第2号の規定の適用を免除することがある。

7 単位を取得することができなかつた選択科目を次年次以降において取得する場合には、第6条第1項第2号の規定にかかわらず、この適用を免除することがある。

8 第3項および第4項の規定にかかわらず、3年次終了時において、それまでの各学年に配当された専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、次年次への進級を認めない。

(理学療法学科における進級)

第16条の2 本条において、理学療法学科の進級に関する事項を定める。

2 その年次に配当された必修科目の単位を取得したときは、次年次への進級を認める。

3 当該年次に配当されている必修科目のうち、第6条第2号に規定する出席不良による受験停止のため必修科目の単位が未取得となった場合には留年とする。

4 当該年次に配当されている必修科目のうち、未取得単位が3単位以下のときには、次年次への仮進級を認める。未取得単位が4単位以上の場合には留年とする。ただし、未取得単位が4単位以上であっても、2年次または3年次への進級判定に限り、当該年度の functional Grade Point Average (以下「fGPA」という。)が2.0以上であれば仮進級を認める。なお、fGPAについては履修および試験等に関する規程施行細則に定める。

5 留年となった者は、前年度までに単位取得出来なかつた必修科目を履修し、単位を取得しなければならない。ただし、前年度に単位取得した科目の単位は認めることとする。

6 仮進級となった者が、必修科目の未取得単位を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定の適用を免除することがある。

7 単位を取得することができなかつた選択科目を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定にかかわらず、この適用を免除することがある。

8 第3項および第4項の規定にかかわらず、3年次終了時において、それまでの各学年に配当された専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、次年次への進級を認めない。

9 3年次の前期終了時において、専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、臨床評価実習および理学療法臨床実習を履修できない。

(作業療法学科における進級)

第16条の3 本条において、作業療法学科の進級に関する事項を定める。

2 その年次に配当された必修科目の単位を取得したときは、次年次への進級を認める。

3 当該年次に配当されている必修科目のうち、第6条第2号に規定する出席不良による受験停止のため必修科目の単位が未取得となった場合には留年とする。

4 当該年次に配当されている必修科目のうち、未取得単位が3単位以下のときには、次年次への仮進級を認める。未取得単位が4単位以上の場合には留年とする。ただし、未取得単位が4単位以上であっても、2年次または3年次への進級判定に限り、当該年度の functional Grade Point Average (以下「fGPA」という。)が2.0以上であれば

ば仮進級を認める。なお、fGPAについては履修および試験等に関する規程施行細則に定める。

- 5 留年となった者は、前年度までに単位取得出来なかった必修科目を履修し、単位を取得しなければならない。ただし、前年度に単位取得した科目の単位は認めることとする。
- 6 仮進級となった者が、必修科目の未取得単位を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定の適用を免除することがある。
- 7 単位を取得することができなかった選択科目を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定にかかわらず、この適用を免除することがある。
- 8 第3項および第4項の規定にかかわらず、3年次終了時において、それまでの各学年に配当された専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、次年次への進級を認めない。
- 9 3年次の前期終了時において、専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、臨床評価実習および作業療法臨床実習を履修できない。

(ヘルスプロモーション整備学科における進級)

第16条の4 本条において、ヘルスプロモーション整備学科の進級に関する事項を定める。

- 2 その年次に配当された必修科目の単位を取得したときは、次年次への進級を認める。
- 3 当該年次に配当されている必修科目のうち、第6条第2号に規定する出席不良による受験停止のため必修科目の単位が未取得となった場合には留年とする。
- 4 当該年次に配当されている必修科目のうち、未取得単位が3単位以下のときは、次年次への仮進級を認める。未取得単位が4単位以上の場合には留年とする。ただし、未取得単位が4単位以上であっても、2年次または3年次への進級判定に限り、当該年度の functional Grade Point Average (以下「fGPA」という。)が2.0以上であれば仮進級を認める。なお、fGPAについては履修および試験等に関する規程施行細則に定める。
- 5 留年となった者は、前年度までに単位取得出来なかった必修科目を履修し、単位を取得しなければならない。ただし、前年度に単位取得した科目の単位は認めることとする。
- 6 仮進級となった者が、必修科目の未取得単位を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定の適用を免除することがある。
- 7 単位を取得することができなかった選択科目を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定にかかわらず、この適用を免除することがある。
- 8 第3項および第4項の規定にかかわらず、3年次終了時において、それまでの各学年に配当された専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、次年次への進級を認めない。

(臨床検査学科における進級)

第16条の5 本条において、臨床検査学科の進級に関する事項を定める。

- 2 その年次に配当された必修科目の単位を取得したときは、次年次への進級を認める。

- 3 当該年次に配当されている必修科目のうち、第6条第2号に規定する出席不良による受験停止のため必修科目の単位が未取得となった場合には留年とする。
- 4 当該年次に配当されている必修科目のうち、未取得単位が3単位以下のときには、次年次への仮進級を認める。未取得単位が4単位以上の場合には留年とする。ただし、未取得単位が4単位以上であっても、2年次または3年次への進級判定に限り、当該年度の functional Grade Point Average（以下「fGPA」という。）が2.0以上であれば仮進級を認める。なお、fGPAについては履修および試験等に関する規程施行細則に定める。
- 5 留年となった者は、前年度までに単位取得出来なかった必修科目を履修し、単位を取得しなければならない。ただし、前年度に単位取得した科目の単位は認めることとする。
- 6 仮進級となった者が、必修科目の未取得単位を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定の適用を免除することがある。
- 7 単位を取得することができなかった選択科目を次年次以降において取得する場合には、第6条第2号の規定にかかわらず、この適用を免除することがある。
- 8 3年次の前期終了時において、専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、臨地実習を履修できない。
- 9 第3項および第4項の規定にかかわらず、3年次終了時において、それまでの各学年に配当された専門教育科目で単位未取得の必修科目がある場合には、次年次への進級を認めない。
- 10 3年次に臨地実習の単位を取得していない者は、4年次に配当する臨地実習を履修できない。

（再履修願）

第17条 学生は、第16条第6項もしくは第7項、第16条の2第6項もしくは第7項、第16条の3第6項もしくは第7項、第16条の4第6項もしくは第7項および第16条の5第6項もしくは第7項により、次年次において、未取得単位を取得するときは、当該年度の4月の定められた日までに所定の手続きを行わなければならない。

（仮進級試験）

第18条 再履修を願い出た者は、仮進級試験を受け、単位を取得しなければならない。

- 2 仮進級試験の成績は、60点を上限とする。
- 3 仮進級試験の追試験および再試験は行わない。

（卒業）

第19条 卒業は、学則第31条に定める卒業の要件を満たしたものについて認める。

- 2 前項において、卒業を認められなかった場合は、前項の要件を満たすまで原級に留まり、単位未取得科目を履修するものとする。

附 則

1. この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成21年4月1日入学生から施行する。

附 則

1. この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成25年7月25日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成26年9月18日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成27年12月24日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

1. この規程は、平成31年4月1日から施行する。